

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長殿

【提出日】 2025年12月25日

【計算期間】 第10期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

【ファンド名】 みのりの投信(確定拠出年金専用)

【発行者名】 株式会社ポートフォリア

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 立田 博司

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷一丁目8番14号

【事務連絡者氏名】 上原 章裕

【連絡場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷一丁目8番14号

【電話番号】 03-5414-5161

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

(注) この半期報告書は、金融商品取引法第7条第4項の規定により、2025年6月30日付をもって提出した
有価証券届出書の訂正届出書とみなされます。

1【ファンドの運用状況】

(1)【投資状況】(2025年10月末日現在)

投資状況

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	4,855,099,933	100.15
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		7,450,472	0.15
合計(純資産総額)		4,847,649,461	100.00

(注1) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

(注2) 投資資産の内書きの時価および投資比率は、当該資産の地域別の内訳です。

<参考>みのりの投信マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
株式	日本	19,064,055,300	74.62
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		6,485,748,180	25.38
合計(純資産総額)		25,549,803,480	100.00

投資資産

1) 投資有価証券の主要銘柄

国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	みのりの投信マ ザーファンド	1,745,559,766	2.5445	4,441,691,872	2.7814	4,855,099,933	100.15

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額の比率です。

<参考>みのりの投信マザーファンド

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	株式	ツムラ	医薬品	374,900	4,100.13	1,537,140,736	3,575.00	1,340,267,500	5.25
2	日本	株式	フジシールインターナショナル	その他製品	490,600	2,603.18	1,277,122,176	2,714.00	1,331,488,400	5.21
3	日本	株式	シェアリングテクノロジ	情報・通信業	1,410,400	1,029.46	1,451,953,305	935.00	1,318,724,000	5.16
4	日本	株式	I D O M	卸売業	1,127,000	1,159.99	1,307,312,487	1,154.00	1,300,558,000	5.09
5	日本	株式	ダイト	医薬品	1,044,900	1,084.14	1,132,817,886	1,244.00	1,299,855,600	5.09
6	日本	株式	スルガ銀行	銀行業	835,000	1,314.18	1,097,345,717	1,541.00	1,286,735,000	5.04
7	日本	株式	キュービーネットホールディングス	サービス業	939,100	1,037.18	974,022,204	1,357.00	1,274,358,700	4.99
8	日本	株式	ソラスト	サービス業	2,514,900	455.79	1,146,288,586	504.00	1,267,509,600	4.96
9	日本	株式	ノジマ	小売業	1,028,700	915.47	941,749,385	1,139.00	1,171,689,300	4.59
10	日本	株式	ニデック	電気機器	590,200	2,371.90	1,399,898,106	1,883.00	1,111,346,600	4.35
11	日本	株式	P E G A S U S	機械	1,253,700	524.40	657,440,280	825.00	1,034,302,500	4.05
12	日本	株式	ニホンフラッシュ	その他製品	1,229,600	801.74	985,830,585	809.00	994,746,400	3.89
13	日本	株式	サックスパー ホールディングス	小売業	1,072,300	849.10	910,489,930	784.00	840,683,200	3.29
14	日本	株式	エレコム	電気機器	375,400	1,678.89	630,255,747	1,804.00	677,221,600	2.65
15	日本	株式	ジャストシステム	情報・通信業	133,800	3,351.87	448,480,206	4,985.00	666,993,000	2.61
16	日本	株式	メニコン	精密機器	517,800	1,161.47	601,412,465	1,202.00	622,395,600	2.44
17	日本	株式	大真空	電気機器	581,200	524.15	304,635,980	581.00	337,677,200	1.32
18	日本	株式	福井コンピュータホールディングス	情報・通信業	78,800	3,276.42	258,181,896	3,085.00	243,098,000	0.95
19	日本	株式	津田駒工業	機械	655,500	386.81	253,556,463	342.00	224,181,000	0.88
20	日本	株式	大研医器	精密機器	485,300	474.74	230,395,382	446.00	216,443,800	0.85
21	日本	株式	サイゼリヤ	小売業	34,100	4,030.15	137,428,115	5,040.00	171,864,000	0.67
22	日本	株式	シップヘルスケアホールディングス	卸売業	56,000	1,914.72	107,224,320	2,303.50	128,996,000	0.50
23	日本	株式	S B Sホールディングス	陸運業	33,800	2,730.62	92,294,956	3,390.00	114,582,000	0.45
24	日本	株式	西島製作所	機械	6,900	1,722.30	11,883,870	2,095.00	14,455,500	0.06

25	日本	株式	アニコム ホールディングス	保険業	18,000	494.62	8,903,160	796.00	14,328,000	0.06
26	日本	株式	アンドエスティHD	小売業	3,900	2,848.00	11,107,200	2,605.00	10,159,500	0.04
27	日本	株式	パルグループホールディングス	小売業	3,800	1,522.50	5,785,500	1,982.00	7,531,600	0.03
28	日本	株式	アネスト岩田	機械	4,800	1,142.00	5,481,600	1,519.00	7,291,200	0.03
29	日本	株式	Genky DrugStores	小売業	1,400	2,653.38	3,714,732	5,130.00	7,182,000	0.03
30	日本	株式	スタジオアリス	サービス業	3,300	2,050.00	6,765,000	2,031.00	6,702,300	0.03

種類別及び業種別の投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	100.15
合計	100.15

<参考>みのりの投信マザーファンド

種類	国内/外国	業種	投資比率(%)
株式	国内	医薬品	10.33
		機械	5.05
		電気機器	8.32
		精密機器	3.28
		その他製品	9.10
		陸運業	0.45
		情報・通信業	8.72
		卸売業	5.62
		小売業	8.67
		医薬品	10.33
		銀行業	5.04
		保険業	0.06
		サービス業	9.97
合計		74.62	

2) 投資不動産物件

該当事項はありません。

3) その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

(2) 【運用実績】

【純資産の推移】

2025年10月末日および同日前1年以内における各月末ならびに計算期間末の純資産の推移は次のとおりです。

期別	純資産総額(円)		1口あたり純資産額(円)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1計算期間末 (2017年3月31日)	110,715,520	110,715,520	1.1711	1.1711
第2計算期間末 (2018年4月2日)	674,503,264	674,503,264	1.3726	1.3726
第3計算期間末 (2019年4月1日)	1,044,189,860	1,044,189,860	1.1183	1.1183
第4計算期間末 (2020年3月31日)	1,306,651,915	1,306,651,915	0.9409	0.9409
第5計算期間末 (2021年3月31日)	1,954,917,772	1,954,917,772	1.1305	1.1305
第6計算期間末 (2022年3月31日)	2,137,112,190	2,137,112,190	1.0717	1.0717
第7計算期間末 (2023年3月31日)	2,734,447,477	2,734,447,477	1.2174	1.2174
第8計算期間末 (2024年4月1日)	3,503,516,430	3,503,516,430	1.4545	1.4545
第9計算期間末 (2025年3月31日)	4,197,897,146	4,197,897,146	1.6414	1.6414

2024年10月末日	4,010,227,570		1.5986	
11月末日	3,995,435,491		1.5865	
12月末日	4,054,805,199		1.6067	
2025年1月末日	4,036,116,827		1.6013	
2月末日	4,124,815,908		1.6321	
3月末日	4,197,897,146		1.6414	
4月末日	4,284,260,017		1.6559	
5月末日	4,382,533,064		1.6397	
6月末日	4,552,893,087		1.6702	
7月末日	4,825,718,656		1.7450	
8月末日	4,958,565,672		1.7880	
9月末日	4,982,964,536		1.8116	
10月末日	4,847,649,461		1.7813	

【分配の推移】

期	計算期間	1口当たりの分配金(円)
第1計算期間	2016年9月30日～2017年3月31日	0.0000
第2計算期間	2017年4月1日～2018年4月2日	0.0000
第3計算期間	2018年4月3日～2019年4月1日	0.0000
第4計算期間	2019年4月2日～2020年3月31日	0.0000
第5計算期間	2020年4月1日～2021年3月31日	0.0000
第6計算期間	2021年4月1日～2022年3月31日	0.0000
第7計算期間	2022年4月1日～2023年3月31日	0.0000
第8計算期間	2023年4月1日～2024年4月1日	0.0000
第9計算期間	2024年4月2日～2025年3月31日	0.0000

【収益率の推移】

期	計算期間	収益率(%)
第1計算期間	2016年9月30日～2017年3月31日	17.1
第2計算期間	2017年4月1日～2018年4月2日	17.2
第3計算期間	2018年4月3日～2019年4月1日	18.5
第4計算期間	2019年4月2日～2020年3月31日	15.9
第5計算期間	2020年4月1日～2021年3月31日	20.2
第6計算期間	2021年4月1日～2022年3月31日	5.2
第7計算期間	2022年4月1日～2023年3月31日	13.6
第8計算期間	2023年4月1日～2024年4月1日	19.5
第9計算期間	2024年4月2日～2025年3月31日	12.8
第10中間計算期間	2025年4月1日～2025年9月30日	10.4

(注) 収益率とは、各計算期間末の基準価額(分配付)から前計算期間末の基準価額を控除した額を前計算期間末の基準価額で除して得た数に100を乗じて得た率です。

<参考情報>

「みのりのDC」の運用実績

設定日：2016年9月30日 作成基準日：2025年10月31日

■ 基準価額・純資産総額の推移

長期的に西洋（米国）から東洋（中国）へ緩やかに覇権が移行するなか、米トランプ政権のパラダイム・シフトを契機に、戦後世界の米国中心の価値観が大きく変わる歴史的な転換点にあります。また40年ぶりの本格的な物価・金利上昇期への移行に伴う金融正常化とともに、過剰消費・債務・流動性の巻き戻しが進むとともに、企業では淘汰・寡占化や技術革新による生産性改革が進むでしょう。「みのりのDC」の基準価額は長期的に着実に上昇しており、今後も新たな世界情勢を踏まえて、厳選した割安な長期成長企業に規律をもって集中投資する運用方針を堅持します。



■ 分配の推移

得られた収益を分配せず再投資することにより、お客様にさらに大きな収益をもたらしたいと考え、2025年3月31日決算においても分配金は0円としました。

分配金（1万口あたり／税引前）

第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期
0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円	0円
設定累計 0円								

■ 主要な資産の状況

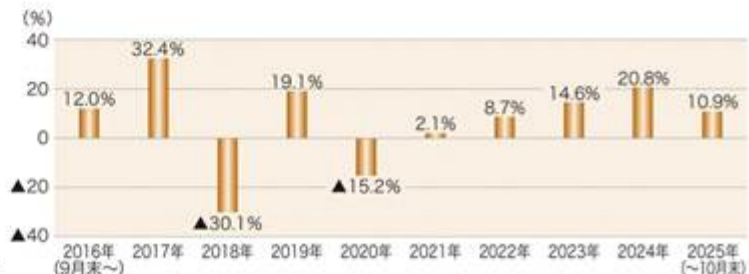
世界的な価値観の変化や地政学リスクの高まり、国家債務の膨張や物価上昇等から、世界の株式市場は不安定さを増しています。こうした中でも、筋肉質で高付加価値に変革し始めた日本企業の収益性は、環境変化に適應したさらなる構造改革で長期的に高まると想定しています。また米国以外の国々への資金還流や通貨高により、ようやく変わり始めた日本企業の魅力はさらに増すでしょう。したがって、割安な海外株式の保有を見送り、世界でも割安な日本の株式のみを保有しています。



※上記の図表はみのりの投資マザーファンドの内容を表しています。

■ 年間収益率の推移（暦年ベース）

長期的な日本株式市場の変化とそんななかでも業績成長と比べて絶対的に割安な株式の魅力の高まりもあり、基準価額は継続的に上昇しています。特に、変動率を市場よりも低く抑えつつ、変動率より大きな上昇率を達成しているのが特徴です。



※絶対収益を目指すので、ベンチマークはありません。
※設定日(2016年9月30日)以前の運用実績はありません。
※数値はいずれも小数点第2位を四捨五入しています。
※運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を
示唆・保証するものではありません。

「みのりのDC」の月々の運用状況は、株式会社ポートフォリアのホームページにおいて開示されています (<https://portfolia.jp/minorinoDC/>)。

【投資リスク】

「みのりのDC」と代表的な資産クラスの動き

(2020年11月～2025年10月)

■ 「みのりのDC」の年間騰落率と分配金再投資後の基準価額の推移

折れ線グラフは「みのりのDC」の月末時点の基準価額の推移を、棒グラフは月末まで1年間保有した場合の騰落率を表しています。基準価額は税引前の分配金を再投資したとして計算しています(第1期から第9期までの分配金は0円です)。



■ 「みのりのDC」と他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

過去5年間(2020年11月から2025年10月まで)において、各月末まで1年間保有したと仮定して計算した騰落率の平均値、最大値、最小値を各資産クラス毎に表示しています。



代表的な資産クラスとの騰落率との比較に用いた指数について

騰落率は、指数算出会社が提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、その騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等や、その騰落率の利用に起因する損害および一切の問題についていかなる責任も負いません。

各資産クラスの指数は以下の通りで、その著作権、商標権、知的財産権等一切の権利は各算出会社に帰属します。

代表的な資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数（TOPIX）（配当込）

株式会社JPX総研が算出、公表している、日本の株式市場を対象とした指数で、配当を考慮したものです。

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込・円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込・円ベース）

MSCI Inc.が開発した、世界の新興国株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債

野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。

新興国債・・・JPモルガンガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド（ヘッジなし・円ベース）

JP Morgan Securities LLC.が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象とした指数です。

株式指数は配当込となっています。

海外指数は為替ヘッジなしの円ベース表示となっています。

2【設定及び解約の実績】

期	計算期間	設定口数 (口)	解約口数 (口)	発行済み口数 (口)

第1計算期間	2016年9月30日～2017年3月31日	112,728,490	18,185,796	94,542,694
第2計算期間	2017年4月1日～2018年4月2日	574,128,435	177,273,035	491,398,094
第3計算期間	2018年4月3日～2019年4月1日	627,304,739	184,976,284	933,726,549
第4計算期間	2019年4月2日～2020年3月31日	660,508,627	205,481,648	1,388,753,528
第5計算期間	2020年4月1日～2021年3月31日	669,043,551	328,614,256	1,729,182,823
第6計算期間	2021年4月1日～2022年3月31日	519,112,169	254,119,378	1,994,175,614
第7計算期間	2022年4月1日～2023年3月31日	537,588,125	285,624,548	2,246,139,191
第8計算期間	2023年4月1日～2024年4月1日	624,765,599	462,082,462	2,408,822,328
第9計算期間	2024年4月2日～2025年3月31日	456,186,477	307,451,991	2,557,556,814
第10中間計算期間	2025年4月1日～2025年9月30日	434,406,515	241,326,386	2,750,636,943

(注1) 本邦外における設定および解約の実績はありません。

(注2) 第1計算期間の設定口数には、当初募集期間中の設定口数を含みます。

3【ファンドの経理状況】

(1) 「みのりの投信(確定拠出年金専用)」の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに、同規則第284条および第307条の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、中間財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 「みのりの投信(確定拠出年金専用)」は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第10期中間計算期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)の中間財務諸表について、イデア監査法人による中間監査を受けております。

中間財務諸表

みのりの投信（確定拠出年金専用）

（１）【中間貸借対照表】

（単位：円）

	第 9 期 2025年 3 月31日現在	第10期中間計算期間末 2025年 9 月30日現在
資産の部		
流動資産		
親投資信託受益証券	4,232,596,177	5,022,429,354
未収入金	5,018,689	6,731,750
流動資産合計	4,237,614,866	5,029,161,104
資産合計	4,237,614,866	5,029,161,104
負債の部		
流動負債		
未払解約金	5,018,689	6,731,750
未払受託者報酬	1,102,782	1,263,432
未払委託者報酬	33,083,385	37,902,954
その他未払費用	512,864	298,432
流動負債合計	39,717,720	46,196,568
負債合計	39,717,720	46,196,568
純資産の部		
元本等		
元本	2,557,556,814	2,750,636,943
剰余金		
中間剰余金又は中間欠損金（ ）	1,640,340,332	2,232,327,593
（分配準備積立金）	1,031,366,894	943,207,925
元本等合計	4,197,897,146	4,982,964,536
純資産合計	4,197,897,146	4,982,964,536
負債純資産合計	4,237,614,866	5,029,161,104

(2) 【中間損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第9期中間計算期間 自 2024年4月2日 至 2024年10月1日	第10期中間計算期間 自 2025年4月1日 至 2025年9月30日
営業収益		
有価証券売買等損益	420,748,650	509,462,571
営業収益合計	420,748,650	509,462,571
営業費用		
受託者報酬	1,024,290	1,263,432
委託者報酬	30,728,551	37,902,954
その他費用	251,015	298,432
営業費用合計	32,003,856	39,464,818
営業利益又は営業損失()	388,744,794	469,997,753
経常利益又は経常損失()	388,744,794	469,997,753
中間純利益又は中間純損失()	388,744,794	469,997,753
一部解約に伴う中間純利益金額の分配額又は 一部解約に伴う中間純損失金額の分配額()	9,200,687	15,746,331
期首剰余金又は期首欠損金()	1,094,694,102	1,640,340,332
剰余金増加額又は欠損金減少額	126,847,555	292,719,388
中間一部解約に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	-	-
中間追加信託に伴う剰余金増加額又は 欠損金減少額	126,847,555	292,719,388
剰余金減少額又は欠損金増加額	71,059,094	154,983,549
中間一部解約に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	71,059,094	154,983,549
中間追加信託に伴う剰余金減少額又は 欠損金増加額	-	-
分配金	-	-
中間剰余金又は中間欠損金()	1,530,026,670	2,232,327,593

(3) 【中間注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(中間貸借対照表に関する注記)

第9期 2025年3月31日現在	第10期中間計算期間末 2025年9月30日現在
1 計算期間の末日における受益権の総数 2,557,556,814口	1 中間計算期間の末日における受益権の総数 2,750,636,943口
2 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.6414円 (1万口当たり純資産額 16,414円)	2 中間計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.8116円 (1万口当たり純資産額 18,116円)

(中間損益及び剰余金計算書に関する注記)

該当事項はありません。

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

第9期 2025年3月31日現在	第10期中間計算期間末 2025年9月30日現在
---------------------	-----------------------------

<p>1 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額 金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2 金融商品の時価の算定方法 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>3 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>1 金融商品の時価及び中間貸借対照表計上額との差額 金融商品はすべて時価で計上されているため、中間貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2 金融商品の時価の算定方法 同左</p> <p>3 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 同左</p>
--	---

(デリバティブ取引に関する注記)

該当事項はありません。

(その他の注記)

元本の移動

第9期 自 2024年4月2日 至 2025年3月31日		第10期中間計算期間 自 2025年4月1日 至 2025年9月30日	
期首元本額	2,408,822,328円	期首元本額	2,557,556,814円
期中追加設定元本額	456,186,477円	期中追加設定元本額	434,406,515円
期中一部解約元本額	307,451,991円	期中一部解約元本額	241,326,386円

参考

「みのりの投信(確定拠出年金専用)」は「みのりの投信マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、中間貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。

なお、同親投資信託の状況は次の通りです。

1 「みのりの投信マザーファンド」の状況

以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

(1) 貸借対照表

(単位:円)

	2025年3月31日現在	2025年9月30日現在
資産の部		
流動資産		
金銭信託	579,069	397,928

コール・ローン	7,955,000,000	6,672,000,000
株式	16,809,363,900	19,697,259,000
未収配当金	201,122,875	248,712,441
未収利息	76,280	63,978
流動資産合計	24,966,142,124	26,618,433,347
資産合計	24,966,142,124	26,618,433,347
負債の部		
流動負債		
未払金	314,022,204	90,260,493
未払解約金	25,236,147	28,162,680
流動負債合計	339,258,351	118,423,173
負債合計	339,258,351	118,423,173
純資産の部		
元本等		
元本	9,702,126,667	9,382,413,115
剰余金		
剰余金又は欠損金()	14,924,757,106	17,117,597,059
元本等合計	24,626,883,773	26,500,010,174
純資産合計	24,626,883,773	26,500,010,174
負債純資産合計	24,966,142,124	26,618,433,347

(2) 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 株式 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、金融商品取引所における最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。
2 収益及び費用の計上基準	(1) 受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 (2) 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。

(貸借対照表に関する注記)

2025年3月31日現在		2025年9月30日現在	
1 当該計算期間の末日における受益権の総数	9,702,126,667口	1 当該計算期間の末日における受益権の総数	9,382,413,115口
2 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 2.5383円 (1万口当たり純資産額 25,383円)	2 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産額 2.8244円 (1万口当たり純資産額 28,244円)

(金融商品に関する注記)

金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日現在	2025年9月30日現在
--------------	--------------

<p>1 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額 金融商品はすべて時価で計上されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2 時価の算定方法 有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 デリバティブ取引 該当事項はありません。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額を時価としております。</p> <p>3 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>1 金融商品の時価及び貸借対照表計上額との差額 同左</p> <p>2 時価の算定方法 有価証券 同左 デリバティブ取引 同左 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 同左</p> <p>3 金融商品の時価等に関する事項の補足説明 同左</p>
--	--

（デリバティブ取引に関する注記）

該当事項はありません。

（その他の注記）

自 2024年4月2日 至 2025年3月31日		自 2025年4月1日 至 2025年9月30日	
元本の移動及び期末元本額の内訳		元本の移動及び期末元本額の内訳	
期首元本額	11,339,505,882円	期首元本額	9,702,126,667円
期中追加設定元本額	721,031,896円	期中追加設定元本額	453,964,121円
期中一部解約元本額	2,358,411,111円	期中一部解約元本額	773,677,673円
期末元本額	9,702,126,667円	期末元本額	9,382,413,115円
期末元本の内訳*		期末元本の内訳*	
みのりの投信	8,034,634,181円	みのりの投信	7,604,184,339円
みのりの投信（確定 拠出年金専用）	1,667,492,486円	みのりの投信（確 定拠出年金専用）	1,778,228,776円

*当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

2025年10月末日現在

資産総額	4,864,647,479円
負債総額	16,998,018円
純資産総額(-)	4,847,649,461円
発行済口数	2,721,412,334口
1口当たり純資産額(/)	1.7813円
(1万口当たり純資産額)	(17,813円)

(参考)

みのりの投信マザーファンド

2025年10月末日現在

資産総額	25,934,251,981円
負債総額	384,448,501円
純資産総額(-)	25,549,803,480円
発行済口数	9,185,812,536口
1口当たり純資産額(/)	2.7814円
(1万口当たり純資産額)	(27,814円)

4【委託会社等の概況】

(1)【資本金の額】

半期代替書面における 1「委託会社等の概況」の記載のとおりです。
半期代替書面については、(<https://portfolia.jp/>)でもご覧いただけます。

(2)【事業の内容及び営業の状況】

半期代替書面における 2「事業の内容及び営業の概況」の記載のとおりです。

(3)【その他】

該当事項はありません。

5【委託会社等の経理状況】

半期代替書面における 3「委託会社等の経理状況」の「冒頭書面」の記載のとおりです。

(1)【貸借対照表】

半期代替書面における 3「委託会社等の経理状況」の(1)「貸借対照表」の記載のとおりです。

(2)【損益計算書】

半期代替書面における 3「委託会社等の経理状況」の(2)「損益計算書」の記載のとおりです。

(3)【株主資本等変動計算書】

半期代替書面における 3「委託会社等の経理状況」の(3)「株主資本等変動計算書」の記載のとおりです。

6【その他】

本日、半期報告書を提出いたしましたので、2025年6月30日付をもって提出した有価証券報告書（みなし有価証券届出書）（以下「原報告書」という。）の記載事項の一部について、内容の更新を行います。
<更新後>に記載している内容は原報告書が更新されます。

有価証券報告書

第二部 委託会社等の情報

第2 その他の関係法人の概況

1 名称、資本金の額及び事業の内容

<更新後>

(1)受託会社

名称	資本金の額	事業の内容
三井住友信託銀行株式会社	342,037百万円 (2025年3月末現在)	銀行法にもとづき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）にもとづき信託業務を営んでいます。

<参考>再信託受託会社の概要

名称	資本金の額	事業の内容
株式会社日本カストディ銀行	51,000百万円 (2025年3月末現在)	銀行法にもとづき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）にもとづき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名称	資本金の額	事業の内容
株式会社北國銀行	26,673百万円 (2025年5月31日現在)	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社SBI証券	54,323百万円 (2025年3月31日現在)	金商法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

独立監査人の中間監査報告書

2025年12月5日

株式会社ポートフォリア
取締役会 御中

イデア監査法人

東京都中央区

指 定 社 員

業 務 執 行 社 員 公認会計士 立野晴朗

中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているみのりの投信（確定拠出年金専用）の2025年4月1日から2025年9月30日までの中間計算期間の中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益及び剰余金計算書並びに中間注記表について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、みのりの投信（確定拠出年金専用）の2025年9月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する中間計算期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の損益の状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、株式会社ポートフォリア及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・ 中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

株式会社ポートフォリア及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。